

オオチャバネヨトウ

チョウ目ヤガ科

石川県カテゴリー 準絶滅危惧

Nonagria puengeleri (Schawerda)

国カテゴリー なし

選定理由

低湿地に固有の種で産地が局限されるうえ、生息地周辺の抽水植物群落は狭小化している。

形態

開張は40~50mmである。前翅は一律に黒褐色であるが、中央部に黒色条と小白点がある。後翅は黄白色である。

国内分布

北海道から九州まで広く分布するが、生息するのは平地の低湿地に限られるため、産地は点在している。

県内分布

現在、知られている産地は加賀市柴山潟のみである。

生態

成虫は年1回、7月から8月に発生する。食草としてガマが知られ、幼虫は茎内にすんでいる。

生息地の条件

ガマをはじめとする抽水植物の多い平野部の広大な低湿地に生息する。

生存の危機

平野部の低湿地は埋め立てや護岸工事が進んでいる。生息地である柴山潟周囲のガマ群落は、埋め立てにより減少しつつある。(A)

特記事項

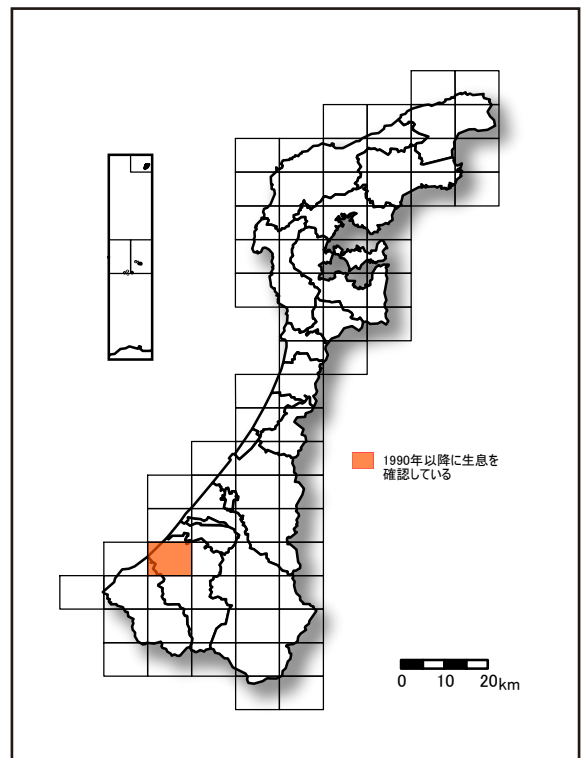
低湿地の環境指標種として位置づけられる。

参考文献

富沢 章 1987. 加賀市柴山潟の蛾類. 誘蛾燈, 109 : 87-97.



標本提供者: 富沢章



県内の分布